

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

りべら

2017.11

146

号



9月にくじらカフェがオープンしました。古民家を活用したカフェで、6月下旬から改装工事、DIY工事を行いました。姫里ゲストハウスいこねは年内にオープンする予定です。



りべら 2017.11 146 号

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞらビル）〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル



特集：2016年度あおぞら財団年次報告…1

「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

- ・交通再生：自転車まちづくり
 - ・文化再生：みてアート
 - ・健康再生：呼吸ケア・リハビリテーションの普及
- 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

- ・西淀川アイデンティティ研究会
- ・公害資料館連携フォーラム
- ・公害教育・研修センター機能の強化

公害経験を伝える国際交流

前理事、新評議員のあいさつ…11

西淀川記憶あつめ隊 矢野初憲さん…12

あおぞらフォトギャラリー



まちづくり 姫里ゲストハウスいこね&くじらカフェのDIY。ボランティア・インターン生と一緒に外壁塗り、内装工事などを行いました。(2017.8.17,18,22,23)



まちづくり 御堂筋サイクルピクニック。子ども自転車教室を行いました。(2017.9.18)



資料館 宮崎県主催の土呂久エコモニツアーにて、土呂久公害を題材にしたフォトランゲージとあおぞら財団が開発したロールプレイ教材を実施しました。(2017.8.31)

お知らせ



●第5回公害資料館連携フォーラムin大阪

- ・日時：2017年12月15日(金)～17日(日)
- ・場所＝大阪市立大学杉本キャンパスほか
- ・参加費＝15日(金)フィールドワーク 3500円
16日(土)～17日(日)フォーラム(2日間通して) 3500円/学生2500円

主催：第5回公害資料館連携フォーラムin大阪実行委員会
事務局：あおぞら財団 <http://kougai.info>

あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885
電子メール：webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

- [1F]地域交流スペース「あおぞらイコバ」**
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円/午後：1,300円/夜間：1,300円/全日：3,000円
- [5F]西淀川・公害と環境資料館(エコミュージム)**
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。
開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)／要事前電話予約
●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

会員・寄附募集

- あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。
- 賛助会員** 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、
法人・団体：年一口10,000円
 - 会費・寄附の振込先**
*郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名：あおぞら財団
*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689
口座名義：あおぞら財団賛助会員



特集
2016年度
あおぞら財団
年次報告

今年で21年目を迎えたあおぞら財団。まちづくり、資料館、環境学習、公害患者の保健、国際交流といった多岐にわたる活動をしています。今月号は2016年度年次報告書として、昨年度の事業の一部をご紹介します。

2016年度の総括

あおぞら財団理事長 村松昭夫

2016年度は、あおぞら財団設立二十年にあたりました。これを機に、改めてこれまでの事業活動、取り組みを見直し、設立趣旨を踏まえて今後の「二十年構想」づくりを進め、第6次事業計画(2016・2018)も策定しました。

2016年度で特筆すべき取り組みの第1は、西淀川の魅力を発信し、地域内外の人が出会い、交流するための新たな交流拠点として、古民家を改修しゲストハウス、コミュニティ・カフェを立ち上げるソーシャル・ビジネスに着手したことです。耐震問題などの課題を解決しつつ、2017年夏のオープンをめざして準備を進めました(2017年9月に「くじらカフェ」がオープン)。また、西淀川区の新たな地域文化を育むことを目指したアートイベント「みてアート(御幣島芸術祭)」も、引き続き地元企業や様々な団体・個人の皆さんと一緒に開催し、「みてアート(御幣島芸術祭)」は地域に定着した取り組みとして発展しています。

第2に、「公害資料館ネットワーク」の取り組みとして、第4回公害資料館連携フォーラムを全国各地、各分野から多数の参加を得て、公害の原点水俣で開催しました。そして、2017年度の第5回フォーラムはいよいよ大阪(会場:大阪市立大学)で開催することになりました。

第3には、公害教育・研修センター機能の充実に努めたことです。その結果、2016年度も講師派遣や研修の受け入れが増加しました。今後は、研修プログラムの整備とその発信を強化して、「姫里ゲストハウスいこね」を活用した研修受け入れなどに取り組んでいくことになっていきます。

第4に、財政改善に関しては、2016年度も引き続き困難な状態が続き、寄付金の増加や「姫里ゲストハウスいこね」の活用などの収益事業の強化が求められています。なお、2016年10月に1名の新規職員を採用しています。

2016年度は、「二十年構想」を具体化した第6次事業計画(2016・2018)の初年度でしたが、各取り組みとも課題は残しつつも、多様な繋がりを活かして貴重な成果を積み重ねることができました。しかし、財政改善など未だ解決の道筋を模索している課題が残っているのも事実です。

あおぞら財団の活動には大きく分けて3つの分野があります。

- 1. 「環境・福祉・防災」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む
- 2. 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる
- 3. 公害経験を伝える国際交流

次のページからは、それぞれの分野から2016年度の主な事業成果を報告いたします。主な事業以外のすべての事業について網羅的に記載している詳細な事業報告は、あおぞら財団のホームページに掲載しています (<http://aozora.or.jp/johou>)。

1.
「環境・福祉・防災」の
視点から、西淀川の
地域再生に取り組む

ちゃんと走ろう！もっと自転車レーンを！ 自転車を活かしたまちづくり

研究員 鎗山 善理子



御堂筋サイクルピクニックで走るタンデム自転車(2016.9.25)

タンデム自転車の貸し出しをしています
あおぞら財団では2009年からタンデム自転車の普及活動をおこなってきました。2人乗りのタンデム自転車は、後ろの席であれば、視覚に障がいのある人でも自転車に乗り、ペダルをこぐことができます。最近では知的障がいのあるお子さんが保護者や施設のスタッフと一緒に乗りに来るなど、利用者の層が広がっています。

ないところがあります。大阪では公道走行ができなかったため、2016年5月に当財団が事務局をつとめる「大阪でタンデム自転車を楽しまい」が大阪府公安委員会に要望書を提出したところ、これまでの実績や利用ニーズが認められ、同年8月1日から規制改正となりました。

自転車をもっとユニバーサルに。子どもたちに自転車教育を

高齢者や障がい者など、移動に困難を抱える人たちがいます。タンデム自転車の公道走行が大阪で可能になったことで、そうした移動困難者の日常生活での移動の選択肢は今までは増えたかもしれませんが、しかし、自転車が安全に



デンマーク式 子ども自転車教室(2016.10.10)

走行できる環境がまだ不足しています。そして、安全に走行するユーザーを増やすことも必要です。

今後は自転車教育、とりわけ小学生や未就学児を対象としたプログラムを各地で展開していきます。

自動車から自転車へ。自転車が走りやすいまちづくり
排気ガスを出さない、環境にも健康にもやさしい自転車の利用をもっと広めていくことを目的に、一人一人がルールを守って安全に走行すること、自転車が安全に走行できる環境をつくることをめざして活動しています。

1.
「環境・福祉・防災」の
視点から、西淀川の
地域再生に取り組む

みてアート(御幣島芸術祭) みんながアートする日

研究員 谷内 久美子

を発見してもらい、多様な参加者が共に作品を楽しみ、作ることで地域に住む人々同士が交流を行うことを目的としています。

地域のイベントとして定着中
第4回みてアートは2016年11月5日(土)、6日(日)に



巨大ぬりえ!オリンピック

アートで地域の魅力を再発
あおぞら財団が事務局をつとめるみてアートは2016年度で4回目の開催を迎えました(主催:みてアート実行委員会)。地域全体をアート会場にし、地域の歴史・文化、ものづくりといった特徴や新しい魅力



段ボールアート「幸せの樹と青い鳥展」

行い、のべ2200名の参加がありました。連携企画や協賛も増え、認知度が少しずつ上がっています。これまでの企画をさらに充実させ、駐車場やドラム缶に絵を描いたり、手作り雑貨に挑戦したり、音楽ライブを楽しむんだり、街角やお店での絵画の展示などを行いました。また、新たな出品者、展示拠点、西淀川10万人の写真展や裂き編みやロジックアートなどの参加型ワークショップなど、新たなつながり・企画ができました。

規模は拡大。今後の課題は運営資金やスタッフの確保
大阪市芸術活動助成金の獲得、協賛の拡大などでチラシやポスターなどの印刷備品



サウンドナイト

購入などの経費を賄うことができました。開催回数を重ねるごとに規模は大きくなっており、継続開催のためには運営資金の獲得、ボランティアの募集およびコーディネートなどが課題になっています。

2017年度のみてアトはさらにパワーアップ
2017年度のみてアートは、新たに、もと歌島橋パスターミナルをメイン会場とし、11月3日、4日に開催します。今までの企画を充実させると共に、巨大絵本作家の山田龍太氏を迎え、巨大ダンボール動物園をつくるといった企画や、新たな連携先を増やすなどの取り組みをしています。



大野川緑陰道路でドラム缶アート



野里住吉神社でスイーツ祭り

1.
「環境・福祉・防災」の
視点から、西淀川の
地域再生に取り組む

地域での呼吸ケア・ リハビリテーションの普及

研究員 谷内 久美子



楽しく呼吸会「みんなで歩こう 矢倉公園」

を改善し充実した生活を目指して患者や医療従事者の呼吸ケア・リハビリの普及を行うと同時に、COPDの啓発を行いました。

COPDの啓発、呼吸ケア・リハビリの普及に努めました。

2016年度の新たな試みとしては、潜在的なCOPD患者の早期発見に向けて、区役所と連携してイベントやがん検診時に約180人に肺年齢測定を行いました。

また、患者が呼吸ケア・リハビリの知識や技術を身につけ、患者同士が支え合う場として、患者向けに「楽しく呼吸会」を区内の3つの診療所で2ヶ月に1回開催しています。内容は、自己管理、運動、栄養、薬、タバコなどい

ろんな面からぜん息・COPDを学べます。

さらに、医療従事者向けの「呼吸ケア・リハビリ講習会」として、初心者向け、基礎編、応用編の連続講座を3回行いました。多職種間の職種の連携のために、理学療法士、看護師、保健師、介護関係など多様な職種を対象とし、初学者から専門家まで幅広く学べる内容としました。

より実効性のあるCOPDの啓発、新たな参加者の獲得が課題

区役所との連携により、幅広くCOPDの啓発を行うことができましたが、今後はCOPD等の疑いがある人の医療機関への受診を促す体制づくりが課題です。また、楽しく呼吸会、医療従事者向け講習会は参加者からの

評価が高いものの、新たな参加者の獲得が必要です。

2017年度はさらに多様な団体・機関と協働で呼吸ケア・リハビリの普及を

肺年齢測定では、専門家による測定、スパイロメーターの導入などを検討しています。また、環境再生保全機構の人材バンクなどの活用、ネットワーク化、多様な団体・機関との連携などを行い、今までの取り組みを拡大・充実させていきます。



医療従事者向けの「呼吸ケア・リハビリ講習会」



肺年齢測定

2.
公害の経験から
学び、未来を創る
市民を育てる

第4回公害資料館 連携フォーラムin水俣

研究員 林 美帆

局を担い、研究会および水俣で「第4回公害資料館連携フォーラム」を開催して、公害を学ぶ議論をリードしました。

2016年度は水俣でフォーラムを実施

日	内容
6月20日	JNC株式会社水俣営業所 工場見学
7月30日	資料保存研究会(法政大学環境アーカイブズ)
8月7日	日本環境教育学会プロジェクト研究 学校研究会報告
9月27日	JNC訪問 CSRヒアリング
11月12日	学校研究会
11月21日	企業研究会
12月16-18日	第4回公害資料館連携フォーラムin水俣 162人参加

分科会で現地の事例を客観的に評価し、他地域につなげていく

公害地域の情報は全国で共有されているわけではありません。フォーラムの分科会では現地の情報を共有しました。「教育旅行」で吉永利夫さんのこれまでの積み上げを共有し、「地域づくり」で鎌倉孝幸さんの「やいなお」の経験や、「学校1」で水俣での教育実践の共有、「企業」も福田農園やリサイクル工場など水俣で頑張る地元企業の話や、「資料保存」では水俣の現地にあるアーカイブズ4館の現状について共有することになりました。これらの分科会の議論は、水俣で実践されている得意なことが明らかになったと同時に、水俣を他の公害地域の目線で見ると

「客観視する」機会となったといえるでしょう。

また、2015年度から継続した、研究会(資料保存、企業、学校)は各地の事例を共有し、現状の把握と、問題点の抽出までようやくできるようになりました。

2017年度は大阪開催
2017年度は大阪開催ということもあり、人権教育関係者とのコラボを意識して、公害教育の広がりを作っていきます。



水俣市立水俣病資料館



「公害入門」で質問に答える宮本憲一氏

公害資料館同士が連携・協働して、公害を全体的にとらえたい
公害を伝える活動をしている人たちと連携・協働して、公害を全体的にとらえたいと考えられています。あおぞら財団が公害資料館ネットワークの事務

2. 公害の経験から
学び、未来を創る
市民を育てる

西淀川 アイデンティティ研究会

研究員 林 美帆

ていきます。2016年度は、西淀川公害に関わるオーラルヒストリーの収集を行い、西淀川でなぜ公害反対運動が展開できたのかを明らかにすることを目指しました。

資料整理やヒアリング、研究会を実施

資料整理

西淀川公害患者と家族の会資料294点、福島公害患者と家族の会資料532点 資料整理点数 66451点

ヒアリング

(4月 26日 峰原利範さん、6月30日 香川婦美子さん、6月27日 森脇君雄さん、9月13日 日宮本憲一先生、1月13日 黒田主税さん)

●西淀川アイデンティティ研究会
8月1日、9月1日、10月3日、12月5日、2月6日

西淀川の特徴を歴史的に検討

2016年度の新しい試みとして「西淀川公害アイデンティティ研究会」を立ち上げました。西淀川の特徴(公害反対運動を展開することができた)を歴史的に検討する為に、資料館スタッフと大阪市立大学除本理史ゼミと合同で研究会を開催することとなりました。個人的な資質だけではなく、時代背景や都市の特徴が西淀川の公害反対運動を成り立たせたことを立証したいと考えています。アウトプットはこれからの課題です。

「西淀川の魂」を明らかにするためにヒアリング・研究会の継続
2017年度もヒアリングを続けています。「西淀川の魂」を明らかにして、広く共有できるように、研究を深めていきたいと思っています。



2. 公害の経験から
学び、未来を創る
市民を育てる

公害に関する 参加型教材開発

研究員 栗本 知子

材の魅力で「面白い」授業をしてみたい」と思っていただけ教材開発を目標としました。

多様な教育分野で教材を活用

教材開発にあたっては、これまで財団が取り組んできた「持続可能な開発のための教育(ESD)」の実績を踏まえ、環境教育のみならず、人権教育・開発教育・市民性教育などで活躍されている方々にご協力いただいています。2016年度には教材開発のための会議を11回開催し、5種類の教材を試作。それらを活用し、12ヶ所約600人を対象に授業を実施しました(表参照)。

西淀川ならではの学びを発信

特に力を入れているのが、エコ



千里高校国際文化科での授業(2016年9月13日)

表 参加型教材の活用状況

教材を使った学校・行事名	日程	参加人数
佛教大学	4月13日	約20人
第60回大阪科学教育研究集会	6月5日	約20人
大阪大学未来共生イノベーター博士課程	6月10日	14人
佛教大学	7月20日	約20人
第34回開発教育全国研究集会	8月7日	25人
第13回多文化共生のための国際理解教育開発セミナー	8月9日	10人
大阪市教育センター 新任教員研修会(北ブロック)	8月17日	78人
大阪府立千里高校国際文化科	9月13-14日	160人
大阪府立春日丘高校	10月26日	40人
教育のつどい大阪2016 問題別分科会	11月27日	10人
福島大学	11月30日	10人
大阪府立西淀川高校	12月13日	120人
佛教大学	1月11日	約20人
大阪府人権教育研究協議会ブラッシュアップセミナー	3月28日	24人



新任教員研修会(2016年8月17日)

です。高度経済成長長期、活気にあふれた西淀川に暮らす5つの家族が、大気汚染公害に直面する中で葛藤を抱えながら生きる物語を追体験します。本を読むだけでは理解しがたい当時の住民の心情を疑似体験することで、より「自分ごと」として公害について考えてもらえる教材をめざしています。

より広く活用いただける教材に

2015・2016年度には、試作教材を使った授業は、あおぞら財団職員や教材開発委員が実施してきました。2017年度には、教材づくりに関わっていない方々に教材を使っていたり、より広く活用いただける汎用性のある教材として完成させていきます。



開発教育全国研究集会(2016年8月17日)

ご支援の御礼

お助けボランティアとしては、計7人(のべ15人)の皆さんからご支援いただきました。インターン生は8人を受け入れました。また、あおぞら財団の活動は、多くの方からのご寄附・ご寄贈によって支えられています。皆さま、本当にありがとうございました。

お助けボランティア (敬称略・順不同)

●2016年度

岡崎 久女 左成 志朗
山下 晴美 山下 晴美
田中 賀子 神原 光子
長洲 智子

インターン生 (敬称略・順不同)

●2016年度

太田 美帆 (同志社女子大学表象文化学部日本語日本文学科)
野邊 季樹 (龍谷大学理工学部物質科学科)
島崎 真也 (近畿大学経営学部吉田ゼミ所属)
前川 直輝 (近畿大学経営学部吉田ゼミ所属)
岩谷 栞 (大阪経済大学経営学部経営学科)
小森 理史 (大阪経済大学経営学部経営学科)
永島 早也佳 (大阪経済大学経済学部経済学科)
張 茜樺 (大阪大学大学院国際公共政策研究科)

寄附・寄贈者 (敬称略・順不同)

●2016年度

ハンヌ・ヴァイサネン	ポール・ジョバン	井関 和彦
新井 真	谷内 久美子	奥村 昌裕
石川 遼子	長瀬 文雄	王 燦発
伊藤 卓次	中村 昌史	山田 明
遠藤 宏一	中山 裕二	酒井 健一
柏原 誠	西口 勲	除本 理史
柏原 愛子	早川 光俊	新田 保次
片岡 直樹	藤江 めぐみ	森山 正和
川崎 美栄子	松村 暢彦	深井 文昭
北村 由枝	宮崎 悦子	石井 琢也
木野 達夫	宮本 憲一	浅井 真二
切刀 恵美子	村田 稔	蔵本 幸治
古賀 崇	村松 昭夫	大久保 規子
鷲坂 長美	湯本 浩之	大栗 和美
式地 清子	吉田 巖	櫻井 次郎
清水 万由子	逢坂 隆子	

アジア砒素ネットワーク	みずほ証券株式会社大阪法人部
イタイイタイ病対策協議会	水俣協立病院
一般財団法人淀川勤労者厚生協会	山崎スチール株式会社
お好み焼き ボン	四日市大学
株式会社あゆみ印刷デザイン	株式会社かんきょうムーブ
株式会社マルモット	尼崎市立地域研究史料館
合同会社 城山	

賛助会員

●2016年度

(2017年3月末時点)		(件数)
個人		131
学生		1
法人		18
団体		15

財政状況

(2016年4月1日～2017年3月31日)

(単位:円)

収入		金額
資産運用益		4,081,703
会費		1,315,000
受託金等		24,867,670
寄付金		576,489
雑収入		4,998,148
基本財産取崩収入		10,000,000
積立金取崩収入		1,500,000
合計		47,339,010
支出		金額
事業費		41,410,290
管理費		11,113,017
積立金取得支出		32,392
固定資産取得支出		674,946
長期貸付金支出		252,000
合計		53,482,645
当期収支差額		-6,143,635
前期繰越収支差額		11,183,242
次期繰越収支差額		5,039,607

西淀川公害の経験をアジアの公害に生かすために
あおぞら財団では、西淀川大気汚染公害の経験を世界、とりわけアジアの人達に伝え、交流することで、新たな被害を未然に防ぎ、現在進行形の様々な公害環境問題をもに解決していくことと取り組んでいます。



人民大会堂のロビーにて

中国、台湾と意見交換、交流
大気汚染問題が深刻な中国では、環境公益訴訟制度の導入(2014)、大気汚染防止法の改正(2015)など、国を挙げて環境改善に力を入れています。10月に北京を訪問した際には、中国の国会議事堂にあたる人民大会堂にて、立法や法改正を担当する全人代常務委員会法制工作委員会行政法室との意見交換に臨みました。
台湾では、大気汚染や原発問題、アスベストに取り組み環境NGO(台湾健康空気行動連盟や緑色公民行動連盟)と意見交換



北京・上海で使えるレンタサイクルアプリ



台北市内にて、信号待ちのバイク群



西淀川公害訴訟のDVDを手渡す村松理事長

アジア全体で公害対策の経験を共有、連携をめざして
こうした活動の情報発信のために、日中環境問題サロンの開催したり、中国青空新聞を発行しています。今後も、アジア

西淀川の経験が中国で活かされています
あおぞら財団の研修は中国環境NGOから高い評価を得ています。参加者からは「大気汚染問題の解決には長い年月がかかる。そして民間の協力が不可欠。学者や医療を含め様々な分野の専門家の協力、政府機関との連携・対話が大切だということ学んだ」との感想をいただきました。

に自転車です。西淀川区内を走りまわりました。



台北市シェアサイクル(YouBike)



舞洲ゴミ処理場を見学。現在、中国ではゴミ処理場の建設場所について各地で議論が巻き起こっているそうです。



西淀川区内をタンデム自転車でサイクリング



歓迎 中国視察団

全体で公害対策に関する経験の共有を図り、各国のパートナー団体と連携しながら、日本からの情報発信を進めていきたいと思っています。

3. 公害経験を伝える国際交流

日本の公害経験をいかした国際交流

事務局長 藤江 徹

あおぞら財団 新旧役員のあいさつ

このたび、山崎光信氏が理事を退任され、矢野初憲氏、松川修氏が新理事に就任されました。また、新しく除本理史氏、清水万由子氏が評議員に就任されました。ここでは、前理事の山崎氏、新評議員の除本氏、清水氏にあいさつをいただきました。なお、新理事の矢野さんは今月号の記憶あつめ隊(2)に登場していただいています。新理事の松川さんは次号の忙中一筆で執筆していただく予定です。



profile
株式会社山崎シャーリング会長

理事の退任にあたって

山崎 光信

もともと西淀川で生まれ育ちました。山崎シャーリングの社長を退任した頃に、前理事長の森脇さんからあおぞら財団の理事にならないかとお誘いがあり、二期にわたって理事に就任しましたが、今回退任することになりました。

公害は今でも絶えず発生しています。企業活動をすれば、廃棄物が必ず出てきます。西淀川には、大野污水处理場から出る悪臭、神崎川のヘドロといった体で感じることができる具体的な公害があるのだから、あおぞら財団にはそれを除く運動をしてほしいという思いがありました。

あおぞら財団の職員がみんな一生懸命仕事をしているのに感心しました。ですが、その一方で、研究室的に閉じこもっている部分もあるようにも感じました。西淀川菜の花プロジェクトの廃油回収運動のように、区民が取り組める活動をもっとやってほしいと思います。西淀川のみんなの役にたつ活動をアピールしていかないと、寄付も集まらないのではないかと懸念しています。地球温暖化など、あおぞら財団が活躍できる場はたくさんあります。大阪市、区役所、自治会などいろんなところと連携してがんばってほしいと思います。

公害地域再生の新しい20年へ

清水 万由子

大学院生の頃から交通まちづくりの熟議の場づくりや公害資料館ネットワークの活動などに参加し、あおぞら財団で多くのことを学ばせていただいています。評議員という大役を拝命することになり、光栄であるとともに身の引き締まる思いです。設立以来20年にわたり積み重ねてきた公害地域再生の取組みの価値をしっかりと発信するとともに、公害を繰り返さない社会をつくるために、今あおぞら財団がなすべきことを考え実行し続けていく必要があります。新しい20年を



profile
龍谷大学政策学部准教授。
専門は環境政策論、環境社会学。
愛知県岡崎市出身

ともに歩むつもりで、重責を果たせるよう自分自身も見識を深め、尽力したいと思います。

評議員就任にあたって

除本 理史

西淀川公害について学ぶようになったのは、大学院生時代に、大気汚染訴訟の和解を受け、各地で環境再生の取り組みがはじまった頃からです。私は川崎での調査研究などに参加しましたが、西淀川はパイオニアであり、つねに注目してきました。その後、宮本憲一先生のすすめもあって、森脇君雄さんから聞き取りをしたり、西淀川の公害反対運動についても研究するようになりました。いまでは私自身、大阪市内で働くようになり、西淀川はより身近な地域に



profile
大阪市立大学 大学院経営学研究科 教授。
環境政策論、環境経済学。神奈川県生まれ。

なっています。評議員として、財団の活動に少しでもお役に立てればと考えています。

シリーズ 西淀川記憶あつめ隊

Vol.21



矢野 初憲 さん

2017年9月25日
聞き取り

新しくあおぞら財団の理事に就任された矢野初憲さんは、1944年に西淀川の福で生まれ育ちました。大阪市民生委員児童委員協議会副会長であり、西淀川区民生委員児童委員協議会会長を務めておられます。

◆福は仲買人の街

「福町は漁師や、水産加工品の製造、中央卸売市場の仲買人をしていて、人が多くて、家は水産加工品を入れる木箱を作ったんや」と、福のまちが大阪湾の恵みを中心に生活を営んでいたこと

を教えてくださいました。「生では価値がないイカの臓物をぬいて茹でて、加工したら中華料理屋で使ってもらえる。価値がないものでも価値があるものに作り替えるのが、福のまちはうまかつてん」と、資源を大切にすることの遅しさがありません。

「小学校4年生の時から親戚の仲買人の手伝いをして、朝の4時から8時まで野田の中央卸売場で働いて、それから学校に行っていた。中学校卒業後は、東洋ゴムに就職したんやけど、その頃は工場への働き口がたくさんあったんや。地域からも40人ぐらい働きに行っていたと思う」と、昭和30年代半ばの工業化の波の中で、金の卵と呼ばれた中卒の労働者の1人として工場労働者を選択しましたが、「家の仕事も手伝わないかんし、工場労働は3交代で不規則やから、なかなか家のことを手伝えられへんから、17歳ぐらいからまた朝は中央市場の仲買人の

仕事を手伝って、8時以降はト口箱(木箱)をつくるようになったんや」と福の水産業と共に歩むことになりました。

◆東洋一の卸売市場

当時の野田の卸売市場は東洋一の規模を誇り、「大阪で売れないものはない」と言われて、全国からいろいろなものが集まってきました。福の仲買人は豊かで、福島や西区、開発が進んでいた北摂に借家を立てる人が多く、地域の益踊りにもキップよくお金を使っていたので、河内音頭の本家筋の人を呼ぶほど景気がよかったそうです。

◆福に留まる

「子どものころは、朝起きたらパンツ一丁で淀川に飛び込んで顔を洗ってたけれど、中学校のころから油が身体について気持ちが悪くなって、2年生のころから入らなくなった。昭和35(1960)年ごろは大野川がすでに汚かった。工場からの

煙もあって夜は寝苦しい。玉ねぎがくさったような臭い。昭和41(1966)年ごろはえげつなかつた」と、福から引越す人がたくさんいました。その中で矢野さんが福に留まったのは「福の街を開拓したのはおじいさんやから、福のまちはどないかしなあかんと思つてた。両親が公害患者会に入って活動したのもその思いから。福はもと

も保守の勢力が強けれど、こんな酷いことされたらたまらないというところで、川上寛一さんや杏脱タケ子さんと手を組むことになったんや」と、自宅でミニ集会をよく開催していたと語ってくれました。

◆建築業に転職

卸売市場が茨木や東部に分割してつくられたこと、小売りがスーパーマーケットに転換する中で、仲買人の役割が小さくなっていききました。そこで、40歳ごろに親戚が営んでいる建築業者で働くことになり、ものを作る面白さに目覚め、矢野さんは新しい力を発揮します。

「いろんなことをしたけれど、瑛瑛(ほうろう)パネルの取り付けの業者を育てる仕事をしたり。大阪モノレールやポータライナーの駅の外壁に使われる金属パネルも取り付けたよ」と、大阪の経済発展の歴史と共にあった矢野さんの人生に、感動しました。

◆人の面倒をみるのは家柄

地域での活動は28歳の時に青少年指導員、子ども会の役員をしたことからずっと子どもたちに関わり続けています。「小さいときからガキ大将やったし、面倒をみるのは家柄もあるかもしれん。小さい時に兄同然の近所の人や7、8人ほど毎日家に来て、ご飯を食べさせてた。当時は食べるものがなかった。父母の気持ちを受け継いでるんだと思う」と、福に生きる人々の幸せを願う矢野さんに、西淀川の心意気を感じました。

ありがとうございます

(2017年6月～2017年8月 敬称略・順不同)

●入会

鷺坂 長美

●寄附・寄贈者

浜田化学 株式会社 森山 正和
株式会社山崎シャーリング 柏原 愛子
水俣市立水俣病資料館 石井 琢也
新田 保次 新田 保次
脇田 武利 井関 和彦
長瀬 文雄
井田 徹治
村上 義和
早川 光俊
蔵本 幸治
一般財団法人 淀川勤労者厚生協会
酒井 健一
株式会社 かんきょうムーブ
切刀 恵美子

●お助けボランティア

飯島 宏司 藤江 恭子
川崎 美都 松尾 直和
川崎 美美乃 宮本 由貴
川崎 由紀子 山野 仁寛
榊原 香織 吉岡 秀紀
佐々木 尊琉 岡村 裕成
左成 志朗 山田 奈央
柴崎 すぐる 野呂 喜也
須藤 三雲
手しごと工房「Moku」

●緑道散歩

西淀川区内を貫く全長3.8kmの大野川緑陰道路。区民にこの緑道の風景を紹介します。



あおぞら財団の西淀川フィールドワークでは、タンデム自転車を活用したプログラムも可能です。緑陰道路の歴史を説明を聞いてから、緑の中を風を切って走る体験が好評です!

(2017.10.8、日本環境教育フォーラム主催「公害とSDGs」にて)

●スタッフツイッター 編集後記

9月にじらカフェ営業開始し、慌ただしい日々が続いています。時々、カフェにスタッフとして入るのですが、他の業務との違いに新鮮な気持ちになります。今日は暇だと思った直後に何組も連続してお客さんが来たり、ランチの12時台が最も忙しいというわけでもなかったり。なかなか難しいものですね。

りべら

No.146 2017年11月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:谷内久美子
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp
デザイン:(株)バード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



●読者の声

川崎 由紀子(かわさき ゆきこ)

[くじらカフェ スタッフ]



私は娘が食物アレルギーの為、以前から身体に良い物に興味があり、もし働いたらオーガニック系の店で働きたいと思っていた時、友人から姫里にくじらカフェがオープンする事を聞き、今回ご縁あって働かせていただく事になりました。古民家を改装し

てカフェが出来ました。2軒分の広さなので掃除や手入れが大変ですが、沢山の方々愛情を込めて作ってくれた場所なので大切に維持していきたいです。お客様には、日々の忙しい生活の中で、少し息抜きしたいと思われる時、自分の大切な時間をこのくじらカフェで過ごす、赤ちゃんからご年配の方々までくつろいで、身体に優しいパンやご飯を食べてホッと一息つく場所として過ごして頂きたいです。まだまだ試行錯誤ですが、精一杯頑張りますので今後ともよろしくお願い致します。

●「りべら」に広告を掲載しませんか?

年4回(季刊)発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。
【りべら広告掲載費】

中面1/9頁:1万円/回、中面1/3頁:3万円/回、中面 全面:9万円/回
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

●西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外約50箇所、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる
西淀川推進協議会
事務局:
浜田化学株式会社西淀川事務所
06-6732-9658



ディサービスセンター

あおぞら苑



2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。



あおぞら御膳



あおぞらの湯

【お問い合わせ】

TEL:06-6475-0111 FAX:06-6475-0114

URL:http://aozoraen.com/

運営:社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号

開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)

〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号

開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日25人

● Hamada Kagaku ● 広告

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください



廃食用油
リサイクル



食品残渣
リサイクル



廃棄物
リサイクル

使い終わった廃食用油

加工中に発生した食品残渣

その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

浜田化学 コンシェルジュ

検索

浜田化学株式会社 ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中!

～「いのちの平等」をめざして～
差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

看護師
募集中!

- ・西淀病院
- ・のぞと診療所
- ・千北診療所
- ・ファミリークリニックあい
- ・姫島診療所
- ・ファミリークリニックなごみ
- ・介護老人保健施設よどの里
- ・在宅総合センターらくらく
- ・社会医学研究所

WHO認証

「地域健康増進支援事業所」
認証施設



一般財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp